

2006

# 見やすい地下鉄路線図

Intelligible subway map

AD 06 大泉 翔平  
指導教員 佐久間 善典

## 1. 研究目的

電車を利用するとき必ず目にする路線図。行き先を調べたり、目的の駅までの駅数を数えたり、乗り換えを調べたり、駅名で今現在自分のいる場所を把握したりもする。

しかし実際、路線図を長時間眺めたり、ゆれる電車の中で見ているとつい見失ったり、いつの間にか違う路線を辿っていたり、乗り換えの駅を見落としたりしてしている。結局それがストレスとなり、疲れて見るのをやめてしまう。

それらの問題をグラフィックデザインを通し、できるだけ解りやすく、ストレスを感じさせない路線図を作ることを研究目的とした。

それらの問題をグラフィックデザインを通して解決できないかと考えた。

## 2. 調査と分析

なぜ現状の路線図が見難いかを調査してみると

- ・ごちゃごちゃして見難い
- ・山手線がわかりにくい
- ・駅が把握しづらい
- ・メリハリがない
- ・文字が細々してる
- ・目がチカチカする

以上の原因だと思われる部分を整理してみた。

- ・路線ごとの区別化が色でしかされていない
- ・線の太さが同じため混乱しやすい
- ・似たような色が多い
- ・同じような文字が多い
- ・路線と文字がかぶってしまっている
- ・色の強弱がある

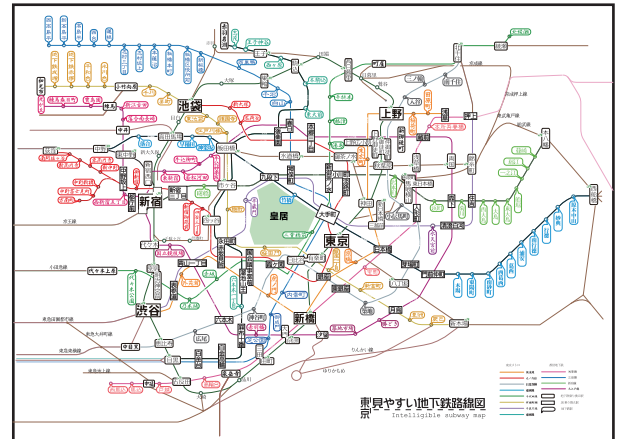
## 3. コンセプトの立案

調査分析から得た情報を元に「路線図から読み取れるそれぞれの情報をグラフィックデザインの視点から整理し、解りやすくストレスを感じにくい路線図を作る」ことをコンセプトとした。

## 4. デザイン展開

なるべく曲がり角以外に曲線を使わず、直線を主体にすることによって見た目の煩雑さを抑えた。主要駅の中でもなじみのある駅は文字をゴシックに変え、一目で解るようにした。路線の色も本来の路線のイメージカラーを残しつつも全体の色調を整え、それでも色の強い路線だけが目立つ場合は線の細さを変化させ対応した。似た様な色の線は、線の中に目印となる別の線を入れ変化を持たせた。乗り換え駅などは JR のロゴを入れたり、駅と駅の間隔を近づけたり同じ文字を使用するなどした。路線ごとに駅名の文字を変え駅名で路線を追えるようにした。

## 5. 完成図



## 6. 結論

直線を主体にすることによってまとまりができ、全体的に良い意味でシンプルな仕上がりになった。乗り換え駅も近くにおくことにより目が行きやすくなった。線の色や太さもムラがなくなり混乱を招き難くなった。路線の色と文字の色を同じにし、駅名の文字を統一することによって路線ごとのまとまりも出せたと思う。

## 7. 参考文献

黒田茂夫 (2005) 『東京地下鉄ガイド』 昭文社・413pp